

2022年3月

公益財団法人 京都服飾文化研究財団 (KCI)

「熊谷登喜夫：軽やかに時を超えた靴デザイナー」展のお知らせ

熊谷登喜夫（くまがい ときお）（1947-87）の生誕75周年となる2022年、KCIギャラリーでは「熊谷登喜夫：軽やかに時を超えた靴デザイナー」展を開催中です。

1980年代、ユーモアと想像力にあふれたデザインの靴を次々と発表し、足元のファッションを彩ったデザイナー、熊谷登喜夫。

服のデザイナーとしてキャリアをスタートさせた熊谷ですが、彼の才能と情熱は靴のデザインにおいても発揮され、80年代を代表する靴デザイナーの1人に数えられます。

本展では熊谷が自身のブランド「トキオ・クマガイ」で発表した靴を中心に展示。加えてKCIの収蔵する18世紀から現代までの靴も展示し、西洋における靴の歴史と熊谷の創作との接合を試みます。

70年代から80年代は、プレタポルテ（高級既製服）が流行の中心となり、服やアクセサリの組み合わせのバランス、いわゆる「コーディネート」が重視され始めた時代です。靴もその存在感を高め、個性的で時に高い芸術性を持ったデザイナーが数多く登場しました。靴デザインに関する教育を受けず、西洋靴の歴史に疎い日本から来た熊谷にとって、その不利な立場がむしろ伝統にとらわれない自由な発想をする土台になったのではないのでしょうか。服作りにおいて、70年代に高田賢三や三宅一生が、80年代に川久保玲や山本耀司が変革を促したように、熊谷もまた、靴のデザインにおける表現の可能性を大きく広げたのです。

靴だけでなく、熊谷自身も人々から愛されていました。駆け出しの頃に仕事を共にしたデザイナー、ジャン＝シャルル・ド・カステルバジャックとはその後も交流が続いています。トキオ・クマガイの欧米での生産・流通を担ったエレスコ社は、サンプル品などの資料をブランド終了後も長く保管していました。日本でも、三宅一生やコシノジュンコといったデザイナーたちとも親交があり、詩人の高橋睦郎は熊谷の没後、彼についての回想をさまざまな媒体で綴っています。そして何より、彼と共にトキオ・クマガイを育て上げた人々が、今なおその記憶を大切にしているのです。

熊谷は惜しくも40歳で夭折。35年が経過した今、その業績を知る人が減りつつあります。パりに3店舗を有した実績を持ち、世界が認めた熊谷の靴をあらためてご紹介します。

彼の靴も、服も、つまるところは人間に対する優しさ、世界に対する優しさがかたちを取った靴であり、服だった

高橋睦郎

熊谷登喜夫（1947-87）は文化服装学院在学中の1968年、新人ファッション・デザイナーの登竜門となる装苑賞を受賞。70年に渡仏し、フリーランスのデザイナーとして活動します。次第に靴のデザインも手掛け、大ヒットする商品も生み出すようになります。

81年、パリのヴィクトワール広場に「トキオ・クマガイ」の店舗をオープン。婦人靴の他に服やアクセサリも取り扱う彼の店はほどなく人気を博します。ブランクーシやカンディンスキーといったアーティストの作品から着想を得たシリーズに始まり、83年からはネズミやキツネ、シマウマの姿をしたパンプスやブーツが注目を集めました。その後もレーシングカー（84年）、仮面（85年）、果物や花（86、87年）など、ウィットに富んだデザインを発表します。顧客にはダイアナ妃やステファニー・ド・モナコら王室女性も含まれ、ファッション雑誌編集者でメトロポリタン美術館コスチューム・インスティテュートのキュレーターでもあったダイアナ・ヴリーランドは200足以上を所有するコレクターでした。

一方、日本ではメンズのファッション・デザイナーとしてデビューします。80年に「トキオ・バイ・ドモン」の名でコレクションを発表。83年、東京でのトキオ・クマガイ・インターナショナル設立と、翌年、アパレルメーカーのイトキン傘下への移行を経て、「トキオ・クマガイ」の商品が日本で販売されるようになります。日本での生産体制を確立し、国内靴産業の技術向上にも貢献します。

85年からはメンズと時計のラインを展開し、87年には毎日ファッション大賞を受賞するなど、順調にビジネスを拡大していましたが、惜しくも同年10月、肝臓がんのため40歳という若さでこの世を去ります。アシスタントとして長く熊谷を支えていた永澤陽一、日本でのブランド展開に携わっていた松島正樹が後任デザイナーに指名され、ブランドは92年まで存続しました。

KCIでは熊谷の生前からトキオ・クマガイの作品を収集。没後には1980年代初期からの優品を含む700点を超える作品の遺贈を受けています。

【展示概要】

*本展は完全予約制です。

予約方法、新型コロナウイルス感染症への対応については KCI ウェブサイト (<https://www.kci.or.jp/>) を参照下さい：

2022 年 1 月 24 日付【新型コロナウイルス感染予防のための当館の開館方針】
https://www.kci.or.jp/information/2022/01/2022124requests_from_the_kci_gallery_for_reservationlast_updated_january_21_2022.html

展覧会名：収蔵品紹介 33 熊谷登喜夫：軽やかに時を超えた靴デザイナー

会期：2022 年 1 月 31 日（月）—6 月 24 日（金）

開館時間：午前 9 時 30 分—午後 5 時

休館日：土・日・祝日

会場：KCI ギャラリー（予約制。86m²／26 坪）

入場料：無料

出展作品：トキオ・クマガイの靴 38 点、靴のデザイン画、時計など 5 点。

18 世紀～現代までの靴 15 点（会期中一部展示替えあり）。合計 58 点。

【広報用画像】

本展広報用として、出展作品画像、会場風景画像を用意しております。

ご希望の際はお問合せください。



Tokio Kumagai 1984 年秋冬

©京都服飾文化研究財団、熊谷登喜夫氏遺贈、林雅之撮影

【お問合せ】

京都服飾文化研究財団（KCI） 学芸課 新居（にい） nii@kci.or.jp